

# ゆくゆくはわが名も消えて春の暮

藤田湘子

まず湘子の自註を引きたい。「『俳句研究』のカメラマンが見えて、拙宅の近くのユリノ木の並木道で撮影した。新緑が青葉に変わろうとする美しい午後だった。何枚も撮られているうちにこんな発想が生まれたのだが、これを虚無と言った人がいる。私は積極的な前向きの句、と思っている。」

この自註は、『俳句研究』平成十二年四月号より十二月号まで「湘子自註」として連載された。まとまった自註の本を出さなかつた湘子の句の背景を知る手立てとして貴重な資料である。一見虚無に見えて実は前向きの句は他にもあり、その自註も興味深い。「湯豆腐や死後に褒められようと思ふ」「冬晴やお蔭様にて無位無官」

1993年 (15作) 第十句集『神楽』 鑑賞・野本京